

# 伝えたい田井の民俗行事



満月の夜は「大麦小麦」で豊作を願う

私の住む小沢の地区では、毎年十五夜の夜に「大麦小麦」という年中行事が行われます。

この日は夕方になると、熊野神社の境内に、小学1年生から6年生の男子がわらで編んだ長さ50〜60センチ位の細長い棒を持って集まり、集落の家々をまわって歩きます。

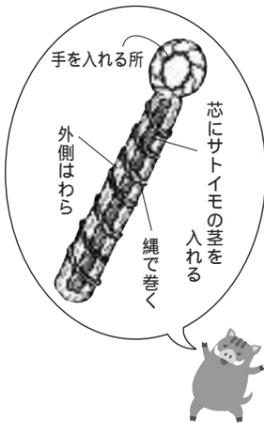
玄関先で、リーダーの中学1年生の笛を合図に、「おおむぎ、こむぎ、さんかくばった、そばあたれ…」と元気な声で歌いながら、わらの棒を地面に力強く打ちつけます。大麦も小麦も、三角畑のそばもたくさん収穫できますようにという、豊作を祈る行事です。

地面をわらの棒で打ちつけるのは、地面の中にいるモグラや害虫を追い払うためだそうです。大麦小麦の歌

が終わると、訪れた家の人から、お小遣いももらえます。50軒ある小沢の集落を2時間ほどかけてまわったあと、集まったお小遣いはみんなまで分け合います。学年の上の人ほどたくさんもらえるそうですよ。

以前はあちらこちらで行われていた「大麦小麦」も、今では小沢地区にしか残されていません。中秋の名月の夜に、縁側にすきや栗の実を飾り、団子や里芋、赤飯などを供えて稲の豊作を祈りました。昔の人たちの願いがこめられた「大麦小麦」の風習は、これから先もずっと受けつがれていってほしいものです。今年9月25日の十五夜に行われます。

上野節子(小沢地区)



杉ノ木稲荷万燈

かつては、多くの祭礼に光を点していた万燈も、今ではほとんどが姿を消してしまっています。この地区で唯一続いている杉ノ木稲荷万燈が、



子供たちの絵が描かれた万燈

古い大鼓を懐かしむ石嶋さん

今年8月19日(日)に行われます。その日は昼過ぎから地区の人たちが集い、神社を清掃し、万燈をつくります。出来上がった約30基の万燈は夕方5時くらいから神社までの参道に並べていきます。万燈に絵を描くのは田井小学校杉ノ木地区の子供たち。夏休みを利用して、マンガやキャラクターなど思い思いのものを描きます。児童数が減った今、子供たちはひとり何枚もの絵を描かなくてはなりません。

20年位前までは大鼓の奉納もありました。「村囃し」と「さざり」という曲を1年おきに演奏していたそうですが、今では大鼓も壊れ、「村囃し」を演奏できるのも石嶋徳一さんお一人になってしまいました。子供たちの夢をのせた万燈の光がこれからも灯り続けるとともに、かつてのにぎやかだった大鼓の音の復活を願わずにはいられません。

小沢陽子(漆所地区)

## 記憶に刻まれた太鼓の音

今でも脳裏に焼きついて離れない記憶がある。あれは小学校5年生の時…。7月、私は神郡の児童館に、初めて祇園の太鼓練習に誘われた。それまで太鼓に触ったことすらない私は、子どもながらに緊張しながら先輩達の太鼓のリズムに必死に耳を傾けた。新人は小太鼓からである。私は小太鼓に目を配る。次第にその音、リズムに心が沸き立ってきた。その時ある先輩が、叩いてみないかと誘ってくれた。歓喜と緊張に板はさみにされながら、必死にリズムを真似する。私が初めて太鼓に触れた瞬間である。幸運にも私はその時、スムーズに音楽の輪に加わることが出来た。それがきつと嬉しかったのだらう。私はその時から太鼓の虜となった。太鼓の一番の見せ場はやはり祇園の山車である。山車の上で太鼓を叩くことは、太鼓を始めてからの私の目標となったのである。

翌年の夏、今度は大太鼓を必死に練習した。大太鼓は、小太鼓に比べて太くズシリとした音である。その練習では、神郡の所謂「近所のおじさん」達が教



誇らしげに太鼓をたたく子供たち

えてくれた。普段の見慣れている姿とは違い、華麗な太鼓の腕前を披露してくれるそのギャップに、何とも言えない格好良さがあった。本番、山車の上で私は、他の太鼓とせめぎあつような緊張感、そして高揚感と同時に、太鼓が作り出す音世界に酔いしれた。

太鼓の音、それは祭りの音であり、夏の音、そして大自然の神々に呼びかける音でもある。我々で神々を大いに楽しませてあげようではないか。後世まで守り伝えなければならぬ音がここにある。

遮那有誠(神郡地区)

白井八坂神社の御神火  
梅雨明けの頃、7月14日(土)15日(日)に、地元で「おかがり」と呼ぶ白井八坂神社の祭礼が行われる。神社境内の御神火場所に、切った松の太木(男松)を立て、竹をまわして、小麦わらを積み上げ吊す。祭礼前夜(14日)午後8時半頃、三切太鼓の響くなか御神火に火がつけられる。炎が天に昇り、火の粉が上空高く燃え上がるさまは圧巻である。子供たちも神輿を持って参加。天空の神に心を寄せて、静かに、そして時にはキヤーキヤーと騒ぎながら神社をあとにする。翌日(15日)再び集落内を太鼓をたたき神輿を担いで巡幸する。

諷川隆雄(白井地区)

## 7.8月

### すそみ歳事記

お話し：櫻井誠さん  
聞き手：里山建築研究所 居島 上野

- 8月 1日 カマブタツイタチ 釜蓋一日といつて、お盆の祭事の始まりの日
- 6日 墓なき お墓を掃除する日 仏様が迷わず自分の家に帰れるようにお墓までの道筋の草取りも行った
- 7日 七夕 6日に飾り付けを行い、7日の朝には川に流す
- 7月 21日 青屋着 青いススキ等の芯で箸を作り、夜うどんを食べる(家族の健康を祈願)
- 30日 茅輪くぐり 子供がススキ等を束ね一人通れる輪をつくり頭からかぶって潜りぬける



絵：櫻井麻衣(田井小学校6年)

- 13日 迎え盆 きゅうり、茄子で馬をつくり仏壇に飾る
- 16日 送り盆
- 9月 1日 八朔 カヤの箸でうどん又は赤飯を食べる(嵐除けの祈り)
- 25日 十五夜 ススキは5本、ダンゴは5個供える

## インフォメーション

平沢万灯参加者募集!  
あなたの描いた絵や文字が万灯となって夏まつりを彩ります。半紙に絵や文字を描く個人やグループを募集/8月18日(土)午後6〜9時、平沢官衙遺跡から平沢八幡神社まで600mの夜道を照らし、荘厳な光の回廊とします。遺跡に復元された3棟の古代の正倉院もライトアップ!/参加費万灯1基2千円(半紙4枚)/申込者に半紙と参加費振込用紙を送付。参加費は平沢万灯夏まつりの開催資金に充当/「問」平沢官衙遺跡案内所029-867-5841

瓦あかりづくり体験会参加受付中!  
7月21日〜8月26日の毎土日/所要時間約2時間/庭園用室内用/10月神郡つくば道・あかりのプラムナードで展示/費用要問合せ/「問」神郡瓦造形研究会029-857-3355

「すそみの田んぼ」稲田の米づくり  
7月15日(日)10〜15時/田んぼ作業と生きもの観察会・イノシシ除け柵作り参加費900円(食食付)/沢水だけで無農薬の米づくりをしています。支援金も募集中(収穫量に応じお米の配分あり)/「問」NPO法人つくば環境フォーラム029-863-5151

筑波山麓自然学校  
夏休みスペシャル 参加費900円(流しそつめんの昼食付)10〜15時  
「夏の昆虫観察会」7月21日(土)  
「沢の生きもの観察会」8月4日(土)  
森のガイドウォーク  
「白滝ハイキング」参加費700円(北条米のおにぎり弁当付)8月18日(土)10〜12時半/「問」筑波ふれあいの里029-866-1519

建築工事・土木工事 設計 施工・管理  
(茨 許可 般 63)11241

# (有)松崎工務店

TEL 029-866-1829  
FAX 029-866-0764  
〒300-4211 つくば市白井 1980